

がんサバイバーシップ研究支援事業

寄付金募集趣意書

令和3年10月

公益財団法人がん研究振興財団

1. ごあいさつ（理事長 堀田 知光）

当財団は、がんの制圧に対する国民の強い要望により、国の政策のほか一般の方々からの浄財を有効にがんの治療や予防技術の開発に役立てるため、昭和40年12月に「がん研究振興会」として発足し、平成24年4月1日内閣府から「公益財団法人がん研究振興財団」として認可を受けております。

当財団は、がん研究に関する助成、若手研究者の育成事業を中心に携わって実施してきましたが、がん対策基本計画に基づく新たな国の戦略を踏まえ、今までに無かった「がんサバイバーシップ」の研究支援事業を平成27年度より企業の皆様から賛助を募り行っております。

これまでも企業の皆様にご理解・ご協力を頂きまして研究助成事業を続けて参りましたが、更に幅広くがん研究支援事業を推進することとしておりますので、これまで以上にご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 財団の活動概要

- (1) がん研究に関する研究の助成
- (2) がん研究に関する国際協力及び国際交流
- (3) がん研究に関する若手研究者の育成
- (4) がん研究に関する国民への情報発信
- (5) がん研究に関する国内外諸団体との連携及び協力

3. 寄付事業の概要

事業の実施に当たっては、企業、医療関係者、学識経験者等から構成される「がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員会」において次の事項について審議します。

- (1) がんサバイバーシップ研究助成事業を体系的・全国的に支援・実施
- (2) 研究助成金による研究成果は、その評価を兼ねて研究成果発表会、セミナーを開催（公開）

4. 寄付のお願い

国によるがん研究における戦略目標としての具体的研究事項の一つに「充実したサバイバーシップを実現する社会の構築をめざした研究」が課題とされております。

患者本人や家族が本来の生活の場所（家庭、職場、学校、地域コミュニティ

など)で暮らしていく過程で直面する様々な課題解決に関する研究については、研究実績が乏しいことから官民一体となった研究を推進する必要があります。

当財団では、企業等の皆様のご理解を頂き平成27年度からがんサバイバーシップ研究支援事業を立上げてまいりましたが、その成果に対して関係者から高い評価を頂いております。

つきましては、がんサバイバーシップの研究支援につきまして引き続きご賛同賜りますようお願い申し上げます。

寄付事業の概要

1. 事業の名称

がんサバイバーシップ研究支援事業

2. 目的

がんの診断や治療を受けた「その後」を生きていくプロセス全体として、がんが長く付き合う慢性病に変化しつつある今日、「診断から治療後も充実した社会生活を送る」ための研究支援を行うことを目的とする。

3. 事業主体者

公益財団法人 がん研究振興財団

4. 事業内容

- (1) がんサバイバーシップ研究を体系的・全国的に支援・実施
- (2) 研究成果を市民公開講演会等で発表し、広く国民に還元

5. がんサバイバーシップ研究支援事業運営委員会（委員）

	氏 名	所 属
委員長	石塚 正敏	跡見学園女子大学マネジメント学部 教授
委 員	児玉 哲郎	栃木県立がんセンター 名誉所長
	高橋 都	NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク 代表理事
	竹内 朋子	東京医療保健大学大学院 看護学研究科 教授
	田中 徳雄	日本製薬工業協会 常務理事
	中川原 章	公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団 理事長

6. 令和2年度事業実績

(1) がんサバイバーシップ研究助成金交付者 (10名総額480万円)

氏名	所属施設名	職名	研究課題名
新井 康之	京都大学医学部附属病院 血液内科	助教	同種造血幹細胞移植前後のリハビリテーションによる、移植後社会復帰率改善効果の解析
岩田 慎太郎	国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	医員	AYA世代の悪性骨腫瘍サバイバーにおけるスポーツ活動に関する調査研究
片山 佳代子	神奈川県立がんセンター臨床 研究所 がん教育・サバイバー シップ支援研究ユニット	主任 研究員	がん電話相談データベースから発掘する男性がん患者のアンメットメディカルニーズの把握とその対策
後藤 真一	国立がん研究センター中央病院 支持療法開発部門	特任 研究員	Financial toxicity (経済的毒性) に着目したがんサバイバーの治療と生活の両立のための支援プログラムの開発
田中 厚誌	信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部	助教 (診察)	軟部肉腫患者の日常生活動作の向上にむけたリハビリテーションプログラムの開発と支援ネットワークの構築
寺田 星乃	愛知県がんセンター 頭頸部外科	医長	頭頸部がんサバイバーの QOL と仕事復帰に関する調査－復職支援体制の構築をめざして
平沢 晃	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻	教授	遺伝性乳癌卵巣癌症候群サバイバーおよびプレバイバーに対する情報提供と意思決定支援を目指した医療圏連携体制の構築
平山 貴敏	国立がん研究センター中央 病院 精神腫瘍科	医員	オンラインコミュニケーションツールを活用したAYA世代がんサバイバーのネットワークシステム『オンラインAYAひろば』の開発
前田 紗江	京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻	博士後 期課程	混合研究法による女性生殖器がん治療後の性生活に関する情報探索行動の明確化：情報提供ツール開発に向けて
馬淵 誠士	奈良県立医科大学 産婦人科	講師	子宮頸がんサバイバーの Sexuality に関する実態調査と性生活の維持および質の向上を目的としたパンフレットの開発

(2) がんサバイバーシップ研究成果発表会の開催

開催日：令和3年2月3日（水）

開催方法：オンライン開催

内容：2019年度助成金交付者10名による研究成果発表

7. 事業期間

第1期：平成27年度～平成30年度（4年間）

第2期：令和元年度～令和3年度（3年間）

第3期：国の「がん研究10か年戦略」に基づく重点研究領域を踏まえ、事業の更新を検討

8. 令和3年度 総事業費（収入・支出の内訳）

総収入	800万円	（寄付金収入の予定）
支出	800万円	
うち、事業費	800万円	
(1) 研究助成金	500万円	（@50万円×10名）
(2) セミナー等	300万円	
謝金	75万円	
旅費	75万円	
印刷・製本費	50万円	
機材等	100万円	

9. 寄付募集額（毎年募集）

募集額は明記をしておりますが、50万円以内を目安にご検討頂ければ幸甚です。

10. 募集期間

令和3年度分は、令和3年5月1日～

11. 税制上の措置

当財団は「公益財団法人」の認定を得ていますので、本財団に対する寄付金は減免税の特典が受けられます。